

平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

大多喜町立大多喜中学校

1 研究主題 「学力を向上させるための指導方法の工夫・改善」

～主体的な学びを目指して～



2 生徒の実態と課題

本校は、学級数8(特別支援学級2含む)、全校生徒数は186人である。今年度、大多喜町立西中学校と統合し、町内唯一の中学校となった。大多喜藩校以来、地域の教育に対する関心は高く、学校へも協力的である。生徒も、質問紙調査の結果に見られるように、規範意識や自尊感情が全国平均よりも高く、地域に対する愛着や関心が強い。一方、「人前で発言することが苦手」と感じる生徒が多く、表現力・記述力の面で課題がある。



3 学力を向上させるための取組

(1) 『サク作タイム』の取組

隔週の火・水曜日の朝自習の時間に、テーマに沿った短作文を全校で書く活動である。ねらいは、生徒が自分の思いを表現できるようにすることである。以下の4点に特に留意して活動を行っている。



- ① 朝自習の10～15分以内で書く。書き終わらなくてもよい。
- ② 書いた作品について、全職員でコメントを記入する。文章の訂正や、否定的な朱書きなどは行わず、生徒の思いを肯定的に受け止める。
- ③ 作品は生徒個人のポートフォリオに積み重ね、学習の進み具合に応じて掲示し、生徒が互いに読み合えるようにする。
- ④ テーマの設定については、生徒が自分の考えを書きたいと思うような題材を選ぶ。



『サク作タイム』の取組について、生徒は肯定的な感想を述べている。

【感想】『サク作タイム』によって色々な人の色々な意見・考え方見方にふれることができ、自分の物の見方や視野が広がった。だから『サク作タイム』は好きだ(3年生)

(2) ホワイトボードを用いたペア・グループ学習

全学年にB4、A3サイズのホワイトボードを各6枚ずつ配付した。書くことで自分の意見をまとめ、発表しやすくなるように、グループ活動の際に活用している。



(3) 学習サポーター等による習熟度別少人数指導やティーム・ティーチング

数学等の授業において習熟度別少人数指導を実施し、学習サポーターを活用している。個々に目が行き届きやすくなり、個々の学習進度に応じた指導が可能となった。



4 成果および今後に向けて

平成30年度の全国学力・学習状況調査において、国語の記述式の解答においては全国平均を上回る結果が得られた。「話のあらすじを学級の友だちにどのように説明するかを書く」設問では、全国平均を12.2%上回った。「相手を意識し、伝える」という点において、取組の成果が表れたと言えるのではないかと。今後の課題として、「自分の考えを筋道立てて説明すること・書くこと」にポイントを置き、授業等の工夫・改善を図りたい。